

学科学年	S 4	科目分類	工業英語[工英] English for Engineers	講義 必修	通年 1 単位	学習教育 目標 C J	担当	柳下福蔵 YAGISHITA Hukuzo
概要	産業活動のグローバル化に伴い、技術情報の交流やコミュニケーションの手段として工業英語の正しい理解と活用が学界ならびに産業界において必須のものとなっている。本講義は、工業英語の実践力の向上を目標として演習を主体に進め、受講学生全員に文部科学省認定工業英語 4 級の取得を奨励する							
科目目標 (到達目標)	工業英語の実践力の向上を目標として演習を主体として講義を進め、受講学生全員が文部科学省認定工業英語 4 級を取得できる実力をつけることを目標とする。							
教科書 器材等	文部科学省認定 工業英検 4 級対策 (社)日本工業英語協会							
評価の基準 と 方法	定期試験の得点70%、レポート20%、受講態度10%の比率で学年成績の評価を行う。再評価は有資格者に対してのみ行う。							
関連科目	4 学年までの総合英語ならびに専門科目の基礎知識							
授業計画								
第 1 回	物の名前／単数・複数							
第 2 回	複合語／物の数え方							
第 3 回	基数詞／序数詞・倍数詞							
第 4 回	度量衡の単位・時間							
第 5 回	同 上							
第 6 回	数学／数式							
第 7 回	同 上							
第 8 回	助動詞による英語表現							
第 9 回	同 上							
第 10 回								単語の試験
第 11 回	現在完了形の英語表現							
第 12 回	同 上							
第 13 回								単語の試験
第 14 回	位置・方向・形							
第 15 回	同 上							
第 16 回								単語の試験
第 17 回	運動／状態							
第 18 回	同 上							
第 19 回	文と文をつなぐ表現							
第 20 回	同 上							
第 21 回	関連的・付加説明の表現							
第 22 回	同 上							
第 23 回	比較・順序							
第 24 回	同 上							
第 25 回	尺度と基準							
第 26 回	同 上							
第 27 回	受動態や仮定法の表現法							
第 28 回	同 上							
第 29 回	目的や理由表現法							
第 30 回	主語・修飾関係の表現法							
オフィス アワー	月曜日の午前中に質問に対応できる可能性が大きい。木曜日と金曜日の午後は工学実験と卒業研究の指導で対応できないことが多い。							
備考	参考書：塩田泰仁・垣本 映著：メカトロニクスがわかる英語、工業調査会(社)日本工業英語協会：工業英検 3 級問題集							